

自然との共生について（回答者 373 人）

【調査の目的】

県では、**人と自然が共生する社会（※1）**づくりを進めています。そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや、企業、NPO・ボランティア等の多様な主体によって**生物多様性（※2）**の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、令和4年3月に「福岡県生物多様性戦略 2022-2026」を策定しました。つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組がどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方等をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきます。

※1 人と自然が共生する社会（自然共生社会）とは

人と自然（生きもの）が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

（環境部自然環境課）

問 1

「生物多様性」の認知度

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計	割合
① 内容をよく知っている	1	6	4	4	4	1	2	22	5.9%
② 内容をある程度知っている	4	6	17	15	16	26	9	93	24.9%
③ 言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる	4	25	16	23	20	26	8	122	32.7%
④ 言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない	1	3	11	19	17	18	4	73	19.6%
⑤ 全く知らない	0	10	15	11	10	13	4	63	16.9%

※R3年度までは「③言葉を聞いたことがある」「④全く知らない」としていたが、R4年度から設問を上記のとおり変更し、認知度は①～②の合計から①～③の合計と整理した。

<直近5年間の福岡県における生物多様性の認知度の推移>

項目	2019(R1)年度		2020(R2)年度		2021(R3)年度		2022(R4)年度		2023(R5)年度	
	人	割合	人	割合	人	割合	人	割合	人	割合
① 内容をよく知っている	34	9.7%	37	10.1%	29	8.1%	43	11.8%	22	5.9%
② 内容をある程度知っている	98	27.8%	106	28.9%	104	28.9%	86	23.6%	93	24.9%
③ 言葉を聞いたことがある(R3年度まで)	121	34.4%	129	35.1%	141	39.2%				
③ 言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる							106	29.0%	122	32.7%
④ 言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない							65	17.8%	73	19.6%
⑤ 全く知らない	99	28.1%	95	25.9%	86	23.9%	65	17.8%	63	16.9%
合計	352	100.0%	367	100.0%	360	100.0%	365	100.0%	373	100.0%

<参考>

県政モニターアンケートによる生物多様性認知度の推移

(H23年度は生物多様性戦略策定時の数値、R4年度から認知度の設定を見直し)

調査年度	認知度合計	(内訳)		
		①	②	③
平成23年	33.0%	7.5%	25.5%	
平成26年	39.3%	6.2%	33.1%	
平成27年	43.4%	11.5%	31.9%	
平成28年	39.5%	11.8%	27.7%	
平成29年	38.1%	11.2%	26.9%	
平成30年	32.0%	9.9%	22.1%	
令和元年	37.5%	9.7%	27.8%	
令和2年	39.0%	10.1%	28.9%	
令和3年	37.0%	8.1%	28.9%	
令和4年	64.4%	11.8%	23.6%	29.0%
令和5年	63.5%	5.9%	24.9%	32.7%

問2

生物多様性に配慮した行動として行っていること（2つまで回答可）

項目	件数	割合
旬のもの、地元のものを選んで購入する	218	33.3%
節電やアイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む	141	21.5%
身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう	89	13.6%
生きものを最後まで責任を持って育てる	94	14.4%
生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	35	5.3%
自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	28	4.3%
エコツアー(ガイドによる自然体験)に参加する	23	3.5%
生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する	19	2.9%
特に行いたいとは思わない	6	0.9%
その他	2	0.3%

<特に行いたいとは思わないを選んだ理由>

- ・興味がない
- ・生物多様性を特に意識した行動は行わない。自然破壊などしてはならないことでなければ問題無いのではと思っています。
- ・特に行いたいと思わないわけではないが、上記の設問のような事ではないと思うし、特に行いたいものがないだけです。
- ・初めて耳にした言葉でまだピンときてないから。
- ・犬の散歩中にアライグマなど見かけるようになり、外来種の繁殖のほうの問題となっていると思います。そちらの対策が最重要ではないですか？ ※筑豊地方
- ・このことの必要性が不明 等

<その他の回答>

- ・農家ですが自分達で雑草や野菜の皮等から肥料を作り種までとる(固定種)
- ・生物多様性にしろ自然破壊にしろ、中心にいたのは人間であり、人間のエゴだから、自然や動物のために人間の生活の仕方生き方行動を個々が見直すきっかけづくりが必要

問3

自然共生社会の実現を目指していく上で、県が重点的に取り組むべきこと
(3つまで回答可)

項目	件数	割合
身近な野生生物(ホタル、ツバメなど)や里地里山といった身近な自然の保全	235	24.4%
希少な野生動植物やその生息地の保全・保護	151	15.7%
野生鳥獣(シカ、イノシシなど)や外来生物による被害の防止	129	13.4%
環境に配慮した公共工事の推進	129	13.4%
環境教育の充実	113	11.7%
生物多様性に関する各種情報の発信・提供(希少種・外来種を含む生きもの全般の情報、県内で活動する保全団体の情報、環境啓発資料、県の施策等)	88	9.1%
生物多様性の保全に取り組む民間団体への支援	58	6.0%
生物多様性保全の取組を進めるための科学的なデータの集積や調査・研究	45	4.7%
分からない	10	1.0%
その他	4	0.4%

<その他の回答>

- ・各個人や各家庭や各職場で日常的に実践できる事(自然共生社会の実現につながる事)を具体的に示して、それがどのようにつながっているかも理解してもらう事の紹介を行い、「日常生活と自然共生社会実現」の距離を縮めて自分事として参加者であることを意識させる活動が必要。
- ・日本にはそもそも神道の考えがあるため子どもへ日本人としての教育を重視すれば自ず

と実現に向かうのではないのでしょうか。

- ・自然、山、川を残す。住宅街を増やし過ぎないでくれ
- ・実際に増えると困ってしまう外来種の駆除方法

問4

生物多様性の保全等について、地域での自主的な取組を推進するために、県はどのようなことを支援すればよいか。

項目	件数	割合
誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のためのリーフレットを作成し、周知・配布する	111	29.8%
地域の活動に対して資金等を助成する	99	26.5%
市町村やNPO・事業者等に対して生物多様性保全活動への助言や技術指導を行う	66	17.7%
地域の活動に対して生物多様性に精通した人材を紹介・派遣する	48	12.9%
生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する	41	11.0%
その他(次の設問で具体的に入力してください。)	8	2.1%

<その他の回答>

- ・誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のため、SNS での発信(短時間で見やすいわかりやすいもの)今は SNS の時代、若い人は特にインスタとか SNS を見る。簡単に始められるんだし広まりやすいからそういうものをちゃんと活用すべき。
- ・子どもがいる若い世帯にファミリー農園を積極的に貸し出す。また、貸し出しても育児に時間がかかるため、ファミリー農園を手伝ってくれるスタッフを置くなどして、敷居を低く設定する。畑から野菜や動物、虫など学ぶことができます。
- ・自然を残す
- ・具体的には思いつきませんが、上記の設問の例とは違うと思います。もっと積極的で身近な行動・支援が必要と思います。
- ・本当は何をすべきかよくわからない。生活が不便になっても耐えられる覚悟を広めればよいのではないかと？
- ・目的の明確化。エネルギー、資源の節約には賛成ですが、安易に地球温暖化と繋げるのはいかがなものなのでしょうか。国から降りてくることを鵜呑みせず、科学的根拠を示して

ほしい。

- ・生物の繁殖分布や科学的情報をネットで検索できるよう研究し公開すべきだと思います。

問5

条件付特定外来生物の規制の内容等の把握。

項目	件数	割合
全く知らない	163	43.7%
条件付特定外来生物に指定されたことは知っている	96	25.7%
規制の内容をある程度知っている	86	23.1%
規制の内容をよく知っている	28	7.5%

問6

地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのある侵略的外来種の中で、優先的に対策が必要な種（2つまで選択可）

項目	件数	割合
セアカゴケグモ	184	29.4%
オオクチバス(通称:ブラックバス)	121	19.4%
アライグマ	109	17.4%
アカミミガメ(通称:ミドリガメ)	85	13.6%
アメリカザリガニ	57	9.1%
水生植物(ブラジルチドメグサ、ナガエツルノゲイトウ 等)	36	5.8%
その他(次の設問で具体的に入力してください。)	22	3.5%
オオキンケイギク	11	1.8%

<その他の回答>

ツマアカスズメバチ1、ヒアリ2、イノシシ2、アフリカマイマイ1、ジャンボタニシ3、スズメバチ1、ハクビシン1、雑草1、オレンジと黄色の中間のような花(種不明)1、不明、特になし9

問7

これまでの設問以外での御意見

※特になしも含めて105件の御意見をいただき、順不動で掲載します。

- ・北九州は便利な街ですが身近に自然もたくさんある恵まれた土地だと感じています。私達家族は休日自然活動をするのが好きなのですが、人によっては同じ北九州市民でも、身近な自然を感じる事がほとんどない人が多いです。自然の中に行く機会がないとsdgsや自然環境の話をしてピンとこないと思うので、難しい話をするよりも行ってみることが自然との共生を理解するのに一番有効だと感じます。
- ・特にありません。あまり考えたことがないので意見が言えません。これから考えていこうと思います。
- ・よく周知してない
- ・住いの地域の自然環境や農作物等が被害を受けている事を知る機会がないのが、県民に広く課題と認識しづらい要素の一つではないかと思いました。（「池の水全部抜いた」というTV番組ぐらいしか、この手の情報を直接被害者ではない人へも広く認知させているものは浮かばないです）
- ・特定外来生物や侵略的外来種にあたる動物や植物は何なのか、また、その見た目などほとんど知らない人が多いと思う。（メディアで出るものや有名なもの【アライグマ、セアカゴケグモ等】しか、知らない人が多いと思う）道で見つけてもそれが生物多様性を脅かすものかどうかかわからないと思うので、見た目や名前も周知したほうが良いと思う。
- ・あまり深く考えたことがない問題なので、知っておかなければいけないという認識が生まれれば勉強するかと思います。
- ・海も山も自然がどんどん失われていることを憂慮しています。温暖化をくい止めることは県単位ではどうにもならないかも知れませんが出来るだけ環境保全を進めてほしい。
- ・特になし。
- ・生物に関して、スズメバチなど危険な生物の駆除に力を入れてください。
- ・今後も社会を持続させるためには、自然との共生が必要であることを理解し、実践するよう、幼少期からの学習が大切であると思います。
- ・侵略的外来種の駆除を、地域活動で取り組めるよう指導等したら良いと思う。
- ・なし
- ・生物多様性を脅かすおそれのある侵略的外来種といっても、なかなか分からない。チラシや動画を作って、もっと県民に分かりやすく知らせてほしい。
- ・アライグマ、オオクチバス、オオフサモ等々、多くの要対策外来種を根絶させ、古来からの日本種を守る必要があります。また、自然との共生に関し、幼少期から自然保護活動や環境教育に参加する機会を増やし、自然の価値や問題について学ぶ必要があると思われまます。
- ・外来種も人が持ち込んだのが原因であり、取り締まりなど強化すべきだと思います。
- ・さいきん無造作に木が切られたり、雑木林が開発されているのを見る。公園などの樹木の枝を切ることは以前から見かけていましたが、さいきん本当に無造作で後の枝振りが

乱れてたり、幹が弱ってるのを見ると自然に対して配慮できる、職人肌の人が居なくなってきたようです。自然に関係する事業者にもっと意識を高めて欲しいです。身近に、子どもが自然と触れる場所がどんどん減っているのも気になるのと北九州では自然豊かなキャンプ場が無くなるようですが、これは子どものために公共のものとして維持して欲しいです。

- ホタルなど時期によっては興味がありますがその他はほとんど知りません。この機会に学んでいけたらと思っています。
- 特になし
- 人間が住処を奪ったがために害獣となってしまった動物を考えると共生の難しさを感じます。でも、外来種を野に放つという身勝手な行動は本当に慎んで欲しいと思います。知らずに放つ人もやはりいると思うので大々的に啓発して欲しいことです。
- 荒れた山林や耕作放棄地など今後も高齢化に伴い増えてくる。自然災害が年々厳しくなる中、被害が更に拡大し手に負えなくなると思う。地球温暖化は、喫緊の課題であり国、県、個人が出来る事からすぐにでも行うことが重要。
- 耕作放棄地が多くなり地域でもなかなか声をあげられずイノシシが人家近くを夜中に耕作放棄地に出てきたりしている実態がある。どこに相談に言ったらよいのか、わからない。
- 特にありません。
- 条例等でどこまでできるかわかりませんが、むやみに外来種を買うことは規制したほうが良いと思います
- ジャンボタニシも田植え時期にはとても困るものである。植えたばかりの苗を食い荒らされている。これも外来生物。被害を受けている。バスや亀の外来種にも近くの遠賀川でもいるだろうから、生態系が心配である。
- ほかに外来生物を見たことがあるか？の質問があってもよかったのでは？
- 自然との共生について考えたことのなかったことに気がつきました。貴重な機会をありがとうございました。
- 生物多様性の保全について、問25のような支援のどれかではなく、どの項目も重要と考えられる（設問では、お金がなくては動くものも動かないことを考え1にした）。しかも、これには「何かをつくって or 一年やって終わり」ではなく、継続的な働きかけが必要だと思います。新宮町も、ビオトープを町内に一ヶ所作り、その後は継続的な調査もなされずのようです。このような状況では、なぜ「多様性の保全が重要なのか」今後は担う子どもたちへ伝えることができないのではないのでしょうか。
- 特にありません
- 人間が飼えなくなった外来種を自然界に放ってしまうことが後をたたない現在、勝手に放つことは法律違反だし自然界を壊すことになることを幼少期から小中学生へ教育を通して伝えていく活動を続けていってほしいです。
- 福岡市南区では、数年前から猿の出没が目撃されている。福岡市南部は急激な人口急増とともに山林が宅地開発した経緯もあり、野生動物の住処が失われている。そのため、野生動物の住処確保と住民安全を維持するためにも専門家による野生動物との共生につ

いて、早急な対処が必要。

- どうも自然との共生は、私には難題だ。台所に出るゴキブリや部屋の蚊・虫をことごとく殺している。蜘蛛なんか「キヤー！」と言って、排除に懸命となる。
- 特にありません。
- 福岡ではどんな外来生物が、被害を与えているのか知らない。
- 共生ということは、相手を尊重するということになると思いますので（人間だけが特別ということではなく）、難しい点も多いと思います。多くの理解と、ある程度の覚悟が求められるのかなと思います（ある程度の生活面の制限や不便さ、我慢、金銭面、等々）。そのようなことを、どう理解を得るかが難しいかと思います。まずは、企業や公共機関から取り組んでいただくなど、成功事例を増やしていければと思います。
- ニュースでたまに聞く事はあるが自身の身近な問題としての意識が薄い。
- 自然と触れ合わずに生活しているので、現状ではまだ興味が持てない。
- 地域ごとの具体的な課題や取り組みを広報してほしいと思います。その上で地域住民が協力、参加出来ることをひとつひとつ実行していくことも大切なことだと思います。
- 人が日常的に捕獲する生き物は、数が減少してしまわないように呼びかける。また、条件付特定外来生物など侵略的外来種は、何が当てはまるのかをポスター等で名前・写真共に広く知らせる。
- 漠然としか理解できていないので、知る機会があるといいです。
- 子供の頃から教えた方がいいと思います
- これも上記同様単体ではなく、都市計画の中に織り込み、教育を行う必要を感じます。ただ、エビデンスがはっきりしない物や一方的なエビデンスに偏っているもの、プロパガンダ的なエビデンスに振り回されているものもありますので、しっかりと方向性を見定めて対応すべきと考えます。
- 特にございません。
- 自然との共生は農業・地産地消の推進とも密接につながるものと思われるため、暮らしをよくする方向で戦略的に対応してほしいと思います。（太陽光発電を理由とした大規模な森林伐採など言語道断です）
- 里山のような環境において人口減少等によって山や川の保全が十分に行われなくなるのではないかと。県として自然環境の保護・保全に力を入れて欲しい。
- 福岡の都市部はビルだらけですね。ヒートアイランド現象で暑いです。もっと緑を都市部にも増やしてほしいです。
- ございません
- 自然との共生や生物多様性に関しては年々国民の意識が高まっていると感じています。よりリテラシーを上げるためには、情報発信や説明会等も大切ですが、やはり一番は「体験」だと思います。実際に自然と触れ合うことで、観察することで「美しい」「気持ち良い」という感情が芽生えれば自ずと「この環境を維持したい・改善したい」という想いが芽生えると思います。私は福岡市中央区に住んでいるのですが「大濠公園」「舞鶴公園」「西公園」があるエリアは「海」も近く自然を感じるには素敵な場所だと思います。特に県管轄の西公園については現在、工事・整備が進んでおり、より美しく生まれ変わる

日を楽しみにしております。

- 生態系を壊すのはたいてい、人間の仕業だと思っています。飼えないから捨てる、ちょっとくらいならいいよね、などの軽い気持ちから大変なことになるということを多くの人に理解してほしいです。知っていても「仕方ないから」「かわいそうだけどね」「こんなことするのは自分くらいでしょ」と思う人もいるようで、平気で他人にそう話すのを聞いたことがあります。生態系を壊す行為について周知した上で、やっていることが”犯罪””大罪”であると強く発信していくことが大事なのではないでしょうか。
- この間、白水池公園に散策に行ったら池にもものすごい数のブラックバス、外来魚がいた、餌をやっている人もいた、注意喚起や駆除したほうがいいと思う。
- 既に人間が都合いいように、操作し支配していると思う。自分も虫が苦手だから、勝手だが、ペットを飼ってあらためて人間の身勝手を知りショックだ。今からでも共存出来るよう協力したい
- 地域で駆除に携わる方を補助して下さい。新しい団体を立ち上げるなど、税金の無駄遣いです。ブラックバスやアメリカザリガニは、駆除後食べるなどして活用したらいいと思います。
- よく知らないことだった。
- いまだにスポーツフィッシング目的でブラックバスを放流している人もいると聞いたことがある。どんどん取り締まって欲しい。
- 知識が不足しているので、行政の情報誌等に記載して情報発信してほしい。
- 動物との共存が自然の中で生きる者にとって重要です。
- 自然を人の手でコントロール必要ですか？自然に任せておいてはだめですか？
- 身体に直接危害が及ぶような、ものへの駆除はぜひお願いしたい。スズメバチなどもどうしたらよいか相談出来るような問い合わせを知らせて欲しい。
- 無駄に告知しても興味のない人には響かないと思います。まずは、興味のある人や知識のある人を育てて、そこから少しずつ発信した方が良いと思います。あとは、小学生など柔軟で純粋な子供たちへの教育が重要でしょう。子ども達が家に知識を持ち帰り家族に説明できた方が浸透するだろうし、次世代時にも確実に引き継がれると期待できます。
- この夏からファミリー農園を借りています。近隣の畑の年配方に耕運機で耕してもらったり、植え付け等について教えてもらったりして交流ができています。そこで育った野菜に子どもが興味を抱き、苦手な虫と闘いながら収穫をしてくれました。まさに共存共栄です。また地域の年配の方々との交流ができ、5歳になる子どもが80歳すぎの年長者が交流しています。年配の方からは「若い人たちをもっと読んできて欲しい、つながりを作りたいし、畑を憩いの場にしたい」と言われていますし、その考えには賛成としました。世代間を超えて交流する場を作ることは難しいですが、このような形で横と縦のつながりができました。水道がないため、少々不便ですが「自然との共生」を肌で感じるためにはよい施策のように感じます。
- こういう活動は、個人が単発的に努力しても難しい面があるので、自治体が主導で協力を仰ぎながら行うとより効果があるのではないかと思う。
- 希少動物の保護には、積極的に取り組んで頂きたいと思います。

- ・既存の団体などと提携すると進めやすい
- ・いろいろな要素を含んだテーマだと感じます。例えば外来生物の広がり背景は、何が絡んでいるのか？を考えるだけで随分複雑だと思います。否定的にとらえるのか、仕方ないと思うのか、実害はある程度容認した上で割り切るといった意見もあるでしょう。今以上に海外との交流が進むでしょうから、外来生物が持ち込まれる環境は広まるでしょう。
- ・生物多様性保全、特に外来種、鳥獣被害対策においては人海戦術が必要不可欠なので、状況を周知し、関われる人間の数を増やしていく(例えば非免許所持者がわなを使えるような施策を増やす)といった対策も考えるべきだと思います。外来種のうち侵略的外来種のみが駆除の対象であることを知らず、外来種全般を忌み嫌う人や、逆に外来種駆除全般に不信感を示す人に日常生活ですらよく出会うので、情報の周知もまだまだ足りてないと感じる。また、生物多様性についての知識を十分に持たないまま、間違った対策を施している人や自治体(福岡県内ではない)の話も聞くので、ミクロレベルでは具体的にどのようなことをしていくべきかという知識の周知も必要であると思う
- ・環境が変わってきて人と生物の共生について考えなければならない時期に来ていると思う。県民への情報発信と県民ができる取り組みの呼び掛けが必要かと思います。
- ・外来種を増やさないように定期的に駆除して欲しいです。
- ・近所の川で鯉や鳥に餌をやる人が多く、カラスも増えて、困っています。何度か注意していますが。買い物袋いっぱいの食パンを川にまき、川も汚れ自然環境にも悪いと思います。なにか、CMや広報誌などで、川への餌やりを止めるよう告知してもらいたいです。
- ・ありません。
- ・公共工事等についても、どの点が自然に配慮した設計になっているか情報開示と発信を行っていただきたい。自然との共生については、子供たちへの教育と、現在の活動の発信が鍵だと感じている。
- ・外来種が生態系を脅かしていると思います。可愛いちょっと他の人とは違うものを飼育してみようと軽い気持ちで飼い始める人がいて迷惑だと思います。蜂の駆除は行政の方でやってもらいたいです。
- ・福岡県が自然との共生に力を入れていることは正直知らなかったですが、推進していただける事は有り難いです。便利な世の中ですが、自然環境に癒やされることも、大事で、トータルで考えると社会生活にも生産性にも一番大切かもしれません。
- ・外来種を安易に搬入する業者等に対し、代表者個人の財産の没収等の罰則の強化が必要と考えます。思い切った制度の改正がない限り、今後も侵略的外来種による被害は増え続けると考えます。
- ・増えすぎたイノシシや鹿は害獣であるし、農家の被害は計り知れない。農家離れが進むと福岡としての農業ブランドに関わると思う。今後も増える傾向にあるのだから駆除の促進を行っても良いのではないかと感じる。
- ・陸上に居て、害になる動植物は、至急的に排除。水中に居る、害になる生物は、メディア、ボランティア団体等の知恵と協力を仰ぐ

- ・外来種ではないが、猪と鹿が増加しており、この対策が急務と思います。
- ・自然保護の点で河川、海岸、森林の環境整備活動を現在以上に積極的に進めてほしい。
- ・動物達を大切にすることは本当に本当に大切なことだと思います。論点がずれていたら申し訳ないのですが、保健所での殺処分を中止していただきたいです。人が怖くて1回噛んだだけなのに殺されたりとても辛く思います。今、いろんな方が保健所に預けられている保護犬を譲渡されており福岡県も広島のように殺処分0になってほしいと思いました。そのために譲渡する会社などができればいいと思いました。
- ・言葉は聞いた事があっても内容まではよくわかっていない。公民館等で講師の話の聞いてみたいです。
- ・実家の横の池に、勝手に釣り人がバスを放して勝手に釣り人の間で有名になっているので迷惑しています。足元と見通しが悪いため滑落して死にかねないうえ、我が家の敷地に勝手に侵入して通っていくので本当に迷惑です。注意をして聞き入れる釣り人がごくまれにいるかいないかです。釣り人もいなくなってほしいし、元から池にいた鯉を全部食い尽くしてしまったバスにもいなくなってほしいです。罰金などで対策をしていただけないでしょうか。
- ・都会でありながら、自然の豊かな福岡で重要な取り組みと感じます。(一時期より蛍が見られなくなった様で残念に思っていました。) 守るものと駆除するもの、やらなければならない事とやってはいけない事を明確にして情報発信してほしいです。老若男女問わず共生の意識が根付くまで、長く地道な活動を期待します。
- ・特に考えたことがないのが問題であると思う。
- ・人間以外の生物に対して寛容な心を持つことが大切であると考えます。人間に害を与えるから対応すべきと安易に捉えるのではなく、その生物がどういう事情でそのような動きをするのかを理解するのかを考えていくことが重要ではないかと考えます。一方で、外国から日本にもたらされた外来種については、日本の環境を崩す危険性を持つものは、徹底した対応を行い、日本の環境を守る必要があると思います。日本の固有の種が絶滅していくことは日本が日本でなくなると考えるからです。
- ・特にありません。
- ・なし
- ・特になし
- ・とくになし
- ・外来種の放流によって在来種が絶滅の淵に追い込まれている。放流するのはだめだと何年も何十年も言ってきたが状態は悪化する一途であるから、放流などに関与したものを一旦、見せしめで検挙すべき。そういった動物を扱ったペットショップにも指導を徹底させ、お祭りでも生物の廃棄所を設けるなどして動物園の餌にする方が良いと思う。そうでないなら、どのように個人で殺処分するのが良いのかを紹介した方が良い。
- ・里山的な小川などのある自然環境を残したり、作る活動が必要だと思います。
- ・これだけ外来種が身近なところで繁殖している状況において、外来種を根絶することは可能なのでしょうか？在来種の保全のための活動など、福岡県が具体的に取り組んでいる活動がよく見えません。どのような目標を設定し、どのような計画で活動を進めている

るのでしょうか？その成果についても共有されているのでしょうか？

- 虫や動物相手では、規制することには限界がありますので、どうにか共存していく方法を模索することがよろしいと思います。
- アライグマ、ブラックバス駆除の為に捕獲された頭数に合わせて報奨金を出す
- オオキンケイギクはこんなによく見かけて可愛い花に癒されているのに、侵略的外来種と知りショックでした。相思鳥もしかり。事程左様に周知がなされていないのは行政の問題だと考えます。メディアにも協力してもらって社会を牽引すべきでしょう。
- なし
- 自然との共生についてより、ソーラーパネルによる森林破壊、また、それによる山の保水力低下からくる水害の方がよっぽど問題。
- あまり身近な問題としてとらえたことがありませんでした。農業や漁業に従事されている方からすると死活問題にもなる重要な事項から優先的に取り組んでいただきたいです。
- 事業が失敗した時の後始末を考えて、新規事業の許認可制度を制定する公共機関が必要です。ジャンボタニシ、テラピア、ライギョなど
- まずは、景観、防災の面からも太陽光パネルの乱立をどうにかしてほしい。観光に力を入れるなら、自然の景観に配慮すべきだと思います。
- ないです
- 環境への負荷を減らす意識付け。身近なところから考える。食べ物を残さず食べる。ゴミ
- 耕作出来ない人や農地等があれば次世代の就農者に購入しやすくしてやる。それが自然を守り環境を守れる第一歩です
- アライグマがこの間、私の実家に屋根裏に住み着いて業者に依頼して退治しましたが、アライグマは、殺しちゃいけないらしいですね。
- 悪の根源は人間であるので人間の意識を変えることが重要。動物は悪くないむしろ被害者
- 東日本に比べ福岡は河川敷や登山道など整備保存されていない。日常のレクリエーションでそれらの自然と触れ合える環境の整備をしてほしい。トイレや水飲み場、駐車場、キャンプ場の整備を総合的に行ってください。
- 特になし
- 在来種は本当に大切です。しかし、外来種もただ駆除すれば良いという安易な考えでは子供たちは、外来種は簡単に殺しても良いと生き物の命を軽視してしまう恐れもあり人間がまいた種なのに生物のせいにしてしまっていることにも疑問を感じています。”
- ハチなど危ない虫を対応して欲しい
- オオクワガタの累代飼育をしています。法律の整備、市民への教育が足りていません。デマ、ウワサが飛び交い野山に廃棄処分したひとがいるそうです。行政ではどのような施策をされるのでしょうか？
- 最近蜂の巣がよくできるが、最初是对応をどうすべきか調べたりしたのであらかじめ周知してもらえると有り難い(変な請求をしてくる業者と繋がりたくない為)
- 自分が住んでいる地域にどんな住む野生動物が住んでいるのか等、殆ど知らない事に気

がつかしました。広報誌などに掲載してほしいです。

- 日頃、あまり気にしてないことだが将来のことを考えれば大切なことなので、まずは、各自が身近に触れる機会を作って増やすことが大事だと思う。
- 害虫が増えてしまったからは退治しにくいので、早めの対策をお願いします。
- 居住地では地域活動として、河川の清掃を行っている。環境を整えることは重要だと思う。教育機関も清掃活動を推進したり、理科教室として自然に触れる機会を少し増やすと、いいと思う。見たこともないものには、興味を持たなくなるので、実際に経験するのが良いと思う。こればかりはオンライン（授業や講義）では得られない目、耳、鼻、手など五感を使うことが、脳に刺激を与えて考えることになると思う。
- 自然と触れ合う機会が少なくなってきたような気がしている昨今で、自然と共生といわれてもピンとこないような人も多いのではないかと思います。個人的にはこれからを担う子供たちにしっかり学んでもらうことが必要なのではないかと思います。地域や学校でもっと自然と触れ合う機会を作る中で強勢について学べるような仕組みがあるといいなと思います。
- 重要な課題のように思えるが、知識不足のため、課題解決策を考えることができません。これから勉強していきます。
- 山は削り取られ、木は伐採され続けていることが問題です。そこに住めたはずの生き物のエリアを人間が奪ってる事に心が痛みます。自分たちにも大切な空気や水を綺麗にしてくれているのは山の木々や生き物です。人間だけの世界ではない事、自然との共生の大切さを皆自身が芯から思えるような環境や教育が早急に必要だと思ってます。私は微力ながら植物を育てています。小さなグリーン活動です。
- 特になし
- これからの社会にとって自然との共生は重要な問題ですので是非、やっていただきたい。
- 自然との共生より、温暖化をどうするかが問題
- 父が農作業をしており、アライグマの被害にあうとっていました。自分で縄をつくり、餌を準備し捕獲した場合は市役所に連絡するそうです。以前は夜間に畑で張り込みをしたこともあるそうです。高齢で農作業するだけでも心体の負担があるのに、補助だったり捕獲の器具の貸し出しなど援助があるといいのになと思いました。
- ミドリガメの駆除をお願いいたします
- 日本特定の固有種を守るために、外来種の規制を強化すべきだと思います。
- 特にありません。
- 特定外来種の対策の一環としてペットショップで取り扱いされている動物にきちんと規制はされているのか知りたい。軽い気持ちでその動物を購入した消費者が、何らかの理由でそのまま逃がしたりする事案が発生しているニュースをよく見るから。